



Project 架け橋

2012年度 Project 架け橋 春期派遣活動最終事業報告書

文責：常陸里梨

代表：田中惇敏

今回の春期派遣は、我々の活動指針である「現地で必要とされる活動」「参加者の成長に繋がるボランティア活動」「現地の「人」とのつながりを大切にする活動」「ボランティア参加のハードルを下げる活動」の四つを念頭において活動した。

春期の派遣を行う前に現地の様子を伺い、現地で必要とされる活動を知ったうえで派遣内容を固めるために、スタッフ4人で2月16日～22日までの間、気仙沼市と南三陸町を訪れ、先遣活動を行った。

(右写真)

春期本派遣では、現地活動期間である3月13日～4月1日を6日間一単位にし、3つのチームに分けてそれぞれの期間で参加者を募り、第一チーム15人、第二チーム14人、第三チーム11人の計



39人(1人重複)の参加者と6人のスタッフで活動を行った。宿泊場所は気仙沼市にある“NPO法人 海辺の森をつくろう会”の事務所に安く泊めさせて頂き、活動場所まではレンタカーで移動した。今回の活動は主に宮城県南三陸町の漁師の方の仕事の手伝いを行った。これは、先遣活動時にワカメ漁をしている漁師さんから、春の時期はワカメの収穫のため忙しく人手不足であるという話を聞き、我々が行く事



で漁師さんのお手伝いができるのではないかと考えたからだ。活動はそれぞれのチームで5ヶ所の漁師さんの元へ別れて行った。そのため作業のやり方は漁師さん毎に少しずつ違っていたが、参加者は皆この時期盛んなワカメやメカブの収穫・出荷手伝いを行った。(上・

右写真)ここで参加者は、作業しながら漁師の方とたくさん交流することができ、震災当時の話なども直接聞くことができた。活動期間のうち5日間は漁師さんのお手伝いで、基本的に5日間とも同じ漁師さんのもとで作業を行った。残りの1日はともしびプロジェクトの本部でワークショップに参加した。(右写真)そのワークショップではキャンドルホルダーを作り、参加者はそのうち1つを持ち帰り、毎月11日にはプロジェクトの一環としてキャンドルを灯す活動をしている。また、ワークショップの前後には気仙沼市・陸前高田市の現地視察を行い、被災地の現状を知る活動も行った。



今回の活動では、活動期間中の一晚を利用して、仮設住宅の方を交流によって共に楽しもうという目的のもと、南三陸町平成の森テニスコート仮設住宅の方々との



Project 架け橋

—九州の大学生と東北をつなぐための団体です—

交流会を行った。(左下写真)交流会では、参加者で九州の郷土料理をふるまい、一緒に食事をしながら交流することで、仮設住宅の方々を元気づけるとともに、参加者も多くのことを学べる活動となった。



また、当初は現地の小学生を対象とした科学教室を開く予定であったが、先遣活動を行った際に聞いたことなど、様々なことを考慮した上で現段階では実施は見送るべきであると判断したため、今回は行わないことにした。

さらに春季派遣活動中は、参加者ひとりひとりが自分の気持ちを整理するために毎晩一人一枚ずつ振り返りシートを書いた。その後のミーティング(右下写真)において参加者全員で意見を共有する場を設け、自分の気持ちや考えた事などをお互いに言い合い、時には震災そのものやこれからの東北の復興について話し合う事もあった。この振り返りシートによって、本人が見たもの、聞いたもの、感じたものを整理し、形として残すことができた。

本派遣活動は以上あげた現地での活動のみならず、出発前にワークショップを含んだ事前研修、活動後には福岡で事後活動も行った。出発前の事前研修では、「無知」による失礼を避けるため我々が共有すべき情報を参加者に提供し、被災地に赴く心構えを話した。事前研修と同時に開催したワークショップでは、交流会の内容をスタッフと参加者で共に考えた。事後活動では現地の生の情報を発信するために“東北マップ”の作成を行った。東北マップとは、震災以前には観光地として栄えていた東北の美味しい料理、いい景色など、派遣中に参加者それぞれが見つけたものを観光地図としてまとめたものであり、これを作ることで福岡の人が東北へ行く際に役立ててもらおうというものである。

これらの活動を通して、当団体は参加者と共に、充実した春期派遣活動を行うことができた。



以下に、参加者が記入した春期派遣活動振り返りシートからのコメントを抜粋掲載する。

・これから自分の出来る復興支援とは自分が感じた被災地の状況を周囲の人に知ってもらうこと。そこから周囲の人に被災地について興味をもってもらいたいと思う。(九州大学2年・女)

・「やっと作業に慣れてきたのに帰るとか寂しいなあ」「また夏とか、来年の春来いよ!!」と言われもっと気仙沼に居たいと感じた。(九州大学2年・男)

・気仙沼に行ったことは一生忘れることが出来ないだろうと思ったし何よりも自分の目で見ると震災のすごさが改めて分かった。(福岡大学3年・女)

・作業がすごく楽しかった。そんなに難しい作業ではなかったから自分にもできることがあるんだ!とうれしかった。(九州大学2年・女)

・商店街のおばちゃんの話聞いたけど、そのとき声が震えていたり涙を浮かべていたりしていたから、まだ心の中に生々しく当時の情景が生々しく残っているんだなと感じた。(九州大学3年・男)

・現地の方々の「どうしようもないこともあるけど前に進もうと頑張る姿」に心をうたれた。(福岡大学2年・女)

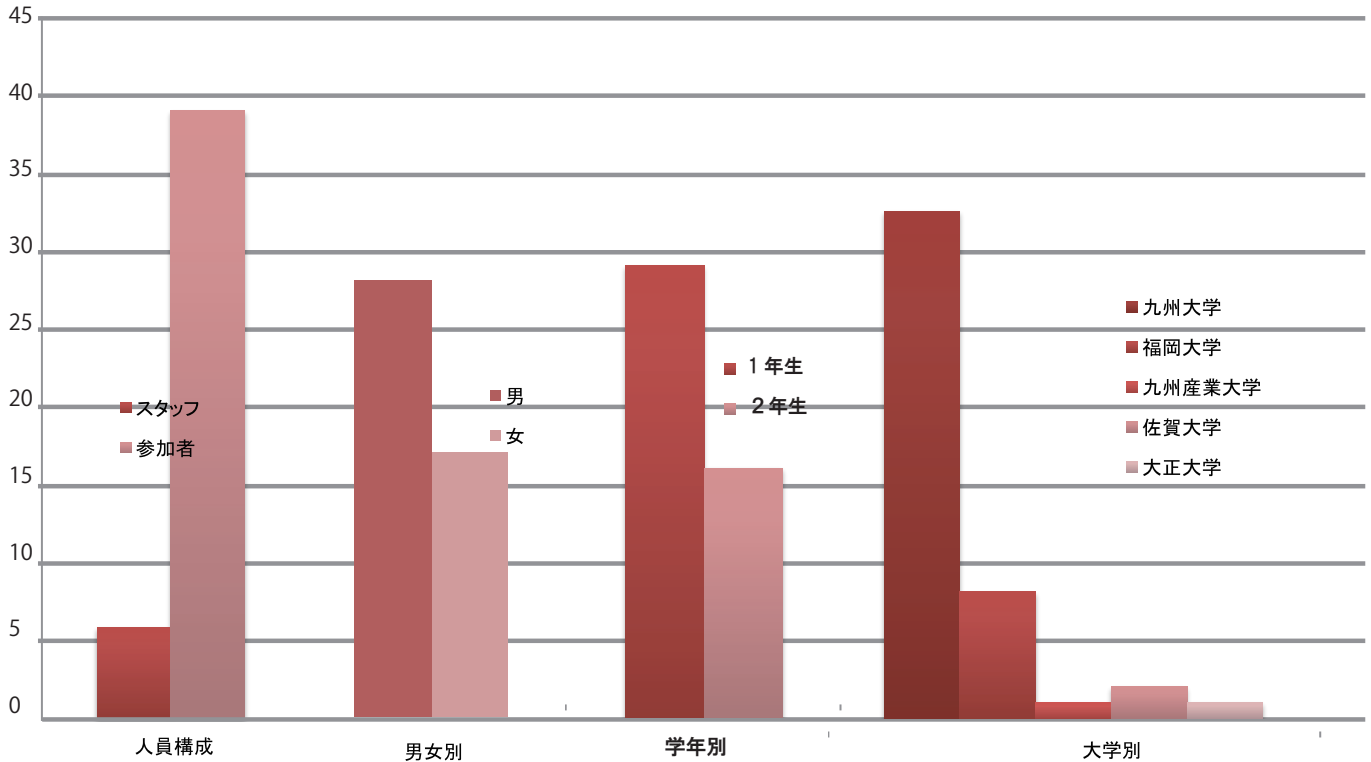
・全てを失い、生きる希望を失ったと言っていた。そんな方が私たちに優しく接してくれるのが心残った。(九州大学2年・男)

Project 架け橋

—九州の大学生と東北をつなぐための団体です—

参加者報告

人員構成	男女別	学年別 (2012年度)	大学別
スタッフ 6人	男28人	1年生 29人	九州大学 32人/福岡大学 8人/佐賀大学 2人
参加者 39人	女17人	2年生 16人	九州産業大学・福岡教育大学・大正大学 各1人
合計 45人			



簡易会計報告

収入の部：

公益財団法人 倶進会 500,000 円

参加者参加費 25,000 円 × 38 人 = 950,000 円

交通費 471,300 円

その他 64,409 円

収入合計：1,985,709 円

支出の部：

先遣活動 141,301 円

福岡での関連活動 509,915 円

本派遣活動 978,037 円

支出合計：1,629,253 円

Project 架け橋公式ホームページ：

<http://project-kakehashi.jimdo.com>

Project 架け橋 facebook ページ：

[https://www.facebook.com/pages/QEDProject 架け橋 /356984664374918](https://www.facebook.com/pages/QEDProject%20架け橋/356984664374918)

メールアドレス：kakehashi.qed@gmail.com

電話番号：080-3985-9973 (代表・田中惇敏)

Project 架け橋

—九州の大学生と東北をつなぐための団体です—